



プロバスだより

2013年2月14日発行

東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2012~13年度テーマ

第207号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

親睦と奉仕そして前進

・発行：情報編集委員会

〜クラブライフを通じて、青春をたぎらせよう〜

時：平成 25 年 1 月 10 日 (木) 16:00~18:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：61 名 出席率 84%

(会員総数 73 名、休会 0 名)

第一部 第 207 回例会

1. 開会 飯田例会委員長の司会で開会

定時に新年の挨拶で例会が始まった。

2. 挨拶 吉田会長



明けまして
おめでとうございます。

新春を迎える
にあたり、今年
のスローガン

「親睦と奉仕そして前進」に立ち返り、気持ちを新たにしたいと考えました。そのきっかけは、今年の箱根駅伝です。

今年の箱根駅伝で優勝したのは、日本体育大学でした。この大学は、昨年体調をくずした選手が多く 19 位とシード落ちして、今大会の予選で第 1 位となり本大会に出てきたチームです。私が感心したのは、箱根駅伝の予選会での戦い方とその準備についてです。

予選は各大学 12~14 名の選手が 20 キロを走り、上位 10 名の合計時間で競うというルールです。日体大はエース級の 3 人が団体で先を走り、残りの選手は全体でまとめ残り落後者を出さないように走りました。戦略の一つかもしれませんが、選手同士の力を熟知し、絆が強固でなければできない戦略です。

走力強化以前に睡眠、食事、準備運動、グラウンドの草むしり等の生活習慣にまで取り組んだとのこと。また 3 年生をキャプテンにし、4 年生から出る不満を乗り越え、チームの絆を作り上

げました。このような努力が最大限の力を発揮したものだと思います。

私たちのプロバスクラブは非常に素晴らしい会だと思います。更に絆を強くするため、今年度のスローガンを再確認したいと思います。

これからの後半の半年は、生涯学習サロンの行事が中心となります。この催しを会員全員で支え、参加者にとってよかったと言えるようにしたいと思います。宜しくお願い致します。

3. ハッピーコイン披露・バースデーカード贈呈



吉田会長より 21 件のハッピーコイン（後掲）の披露があったのち、池田会員手作りのバースデーカードが、吉田会長より 1 月生まれの 8 名（敬称略）、武田洋一郎、河合和郎、米林伸恭、大野聖二、中野義光、寺田昌章、下山邦夫、下田泰造会員に手渡された。

4. 卓話「戦争と平和」

〜戦時下の子供たちと平和について

廣瀬 智子会員



私が八王子の第 4 小学校 2 年の時に大東亜戦争・第二次世界大戦がはじまりました。当時何か大変なことが始まったようだと感じました。家から学校へ行くときに家々

からラジオで「戦闘状態に入れり」ということが聞こえていました。はじめ3年生ぐらいまでは日本の優勢が報道されていましたが、4年生ぐらいになると遠足や学芸会、運動会などがなくなり、時には男の先生方が朝礼の時に朝礼台上に上り「私は戦地に行って来ます」という挨拶をされるようになりました。5年生になると、警戒警報が鳴ると下級生を連れて機銃掃射に遭わないよう軒下を通り下校しました。今で言う一斉下校です。

私の家は八王子駅の南側で、駅のそばで呉服屋をしていましたが売る物も無くなり、働いている人も徴用や兵隊になったりで店を閉めることになりました。

私たちは宿題でドングリを拾ったり、茶殻を乾かして持っていったり、萱を刈って持って行き校庭で干したりしました。軍馬の飼料にするのだそうです。そのほか新聞配達が小学生の仕事でした。

昭和20年の7月にビラで静岡、長岡、水戸、八王子に8月1日空襲があるとの空襲予告がありました。いよいよ1日の夜、ラジオで長岡、川崎などの空襲の情報があつたので八王子は大丈夫かなと話していましたが、8時過ぎになるとB29の爆音が聞こえてきて暫くすると空襲がはじまったのです。

父は警報と同時に警防団本部に行きました。母は妹を負い、姉と私は乳母車を押して浅川の暁橋に向かって逃げました。河川敷に降りると人が大勢いました。河原から駅の方を見ると、何度も何度も焼夷弾が光の線の様に落ち、新しい火の手が上がりました。つむじ風も起き、かなりの時間空襲が続き、鎮火したのは四時過ぎでした。

夜も明け、私たちは集合場所に決めていた安土の知人の家に行き、無事に揃ったので家の方に戻りました。自宅の焼け跡には風呂桶の底板が少しと庭の木や竹がくすぶっているだけでした。向かいの家の人、隣の家の人とも逃げ遅れてしまったと聞きました。前日まで一緒に遊んだ友だちもその中の一人です。

照りつける太陽と焼け跡の暑さの中を高尾の親戚の家に行くことにしました。途中防火用水に上半身を入れたままの人などや焼けた家々、異臭漂う焼け跡の中を歩き、途中多賀神社で少し休み、

暗くなってようやく高尾につきました。

私は現在、八王子の平和展の実行委員をしていますので8月の平和展で当時の、そのようなことを語り部として話をしましたところ、MXテレビで取材があつて、その縁で幾つかの小学校の6年生の授業で話をすることになりました。

その後感想文が纏められてそれを読みましたが、「戦争は戦地だけでなく一人一人が戦争に参加していたのだ」ということや、いかに平和が大切か改めて感じたという文が多かったです。

当時のことを知る人も数少なくなっていくなかで、語り部としてこれからも役に立ってゆきたいと思います。

5. 幹事報告 塩澤幹事

1月4日の理事会での検討事項。①各人の呼称について役職に就いている方は〇〇委員長、〇〇幹事と言うことになっていますが、一般の方は今後「〇〇さん」に統一していこうということになりました。②新入会員の方につきまして八王子に地縁のある方をということにいたしました。③何も連絡なく欠席される方がいますが、事情がある場合には休会、退会などの届け出を所定の用紙で提出していただく。④懸案の新ホームページについては次年度を目標に実施を考える。

6. 各委員会報告

(1) 例会委員会 飯田委員長

総数73名、出席者61名 出席率84%
配布資料の確認。

(2) 情報委員会 寺田委員長

今回の会報は配布いたしました通りでございます。今後とも投稿を宜しくお願い致します。ホームページにつきましては2月以降に検討を続け7月次年度には運営できる予定で進めております。

(3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長

先月入会されました高橋敏夫会員の住所にミスプリントがありましたのでお詫びして訂正いたします。

(正) 立川市幸町2-33-21

(4) 研修委員会 土井俊雄委員長

特になし。

(5) 地域奉仕委員会 橋本鋼二委員長

12月にお願い致しましたサロンへのお誘いにつきまして70近いリクエストを頂きました。有難うございます。各自のケースに必要な枚数をお届けいたしました。

希望のテーマをまだ提出されてない方には本日提出をお願い致します。また講師の方には用意するもの等のアンケートをお配りしていますが来月例会までにご提出お願い致します。

8日の朝日新聞のマリオンにサロンの記事が紹介され、翌9日に早速1通反応がありました。またショッパーにも紹介記事が掲載されました。

(6) 交流担当

立川会員 (全日本プロバス副会長)



全日本プロバスから報告いたします。

昨年12月19日横浜で、全日本プロバスの正副会長と幹事の会合がありました。昨年11月神戸での総会で新たな役員が決まり、今後2年間活動するわけですが、全日本プロバスとは何かということを討議しました。そこで情報センターとして情報を集め、また発信するというを確認いたしました。

一昨日新潟プロバスクラブから全日本プロバス協議会の副会長として公式訪問の依頼があり行ってまいりました。新潟プロバスクラブは人口が90万人もいるのに会員は30名でコンパクトなクラブです。八王子の5か月前に創立された地方色豊かな温かみのあるクラブです。

もう一点は別紙の「第2回全日本プロバス協議会関東中央地区交流会」のご案内です。第2回目は多摩プロバスがホストを引き受けます。どうぞ近くでありますので大勢参加されます事をお願い致します。

浅川交流担当理事

昨日下午下田会員が多摩プロバスの例会に出席し卓話をいたしました。また来月は多摩プロバスの方が当八王子に出席し卓話をする事になっていきます。今後卓話の交流は順調にいくと思います。また、同好会についてはゴルフなど既に交流して

おります。

第1回全日本プロバス協議会関東中央地区交流会は当八王子がホストで行いましたが、引き続いて第2回を多摩プロバスがホストで行います。今後の成否はこの第2回にかかっています。シニア・ダンディーズにも出演依頼もあり、多くの会員が出席されますようお願い致します。

7. 「宇宙の学校」報告 下山運営本部長

本日は八王子テレメディアに放映された映像を映写してお見せする積りでしたが一部ディスクが壊れてしまい、一部しかお見せする事が出来ません。12月15日に本部会場としては初めて広い体育館で熱気球を上げました。また翌16日には桑志高校の会場の閉講式が行われました。これには予定していなかった的川先生が急遽駆けつけてくれまして大変盛り上がりました。12月16日までで7回のスクーリングを終え、今年1月27日に本部の閉講式とスクーリングで今年度の宇宙の学校を終えることとなりました。桑志高校会場で延400名ほど、本部会場で延500名ほどの方に経験していただいたこととなります。ささやかながら、日本の未来と地域の子どもの育成に貢献できたと感じます。プロバスクラブが地域で大きな存在になりつつあるとひしひしと感じます。

それでは桑志高校の会場の模様を撮影した画像をご覧に入れ、報告に変えます。

「宇宙の学校」最終日(第4日目)報告 運営本部長 馬場 征彦

1)桑志会場の最終日;12月16日(日)に59組中45



組90名の親子の出席のもとに大会議室で開催されました。最初に的川泰宣先生(KU-MA 会長、

JAXA 名誉教授)から開校式を欠席(海外出張の予定変更のため)した補いとして、「りんごは落ちるのに月は落ちない!」というテーマのミニ講演をして頂きました。地球上でボールを地面に水平に投げる話を例にとり、だんだん投げるスピードを上げていけば遂に理論上ボールは地球を1周できるという説明があり、月は高いところにあるので落ちてこないのではなく、

浮かんでいるように見えているが実は地球の周りをすごいスピードで回っているのだから落ちてこないと解説されました。第4回スクーリングの「万華鏡を作ろう」(KU-MAの菅雅人先生が指導)に引き続き「家庭学習成果発表会」が行われましたが本部会場と併せて後述します。閉校式では的川先生から参加者代表の受講生に「終了証」が手渡され、桑志高校の小沼校長の閉会宣言で参加者全員が笑顔で拍手をして閉校しました。その後に希望する親子や高校生ボランティアは的川先生と記念撮影をしました。

2)本部会場の最終日;1月27日(日)に68組中55組110名の親子の出席のもと教育センターで開催されました。



最初に12月15日の「宇宙の学校」(第3日目)で八王子テレメディアが



取材して放送した映像を全員で鑑賞しました。その後実施された第3回スクーリングの「万華鏡を作ろう」(KU-MAの山下法昭先生が指導)と「家庭学習成果発表会」は桑志会場と併せて後に述べます。その次に家庭学習教材として「星砂で星座絵を描こう」を配布し、山下法昭先生から説明がありました。内容は桑志会場の第1日目の報告(第



204号)とほぼ同じなので省略します。閉校式では、八王子市教育委員会生涯学習スポ

ーツ部の榎本部長から受講生代表者に「終了証」が手渡されました。次に同部長から、受講生親子と会場スタッフの皆様に対してお礼の言葉と閉校の挨拶

があり閉校となりました。その後で参加して頂いたボランティア、スタッフの記念写真を撮りました。



3)スクーリング「万華鏡を作ろう」;最初に鏡の色々な役割の話がありました。自転車の反射板にも鏡が利用されており、どこから光が来ても来た方向に反射光を返します。月にもアポロ宇宙船が設置した反射板(画像紹介あり;3枚の鏡を組み合わせて入射光を入射方向へ反射するコーナーキュービック・ミラーで構成)があり、地球から発射したレーザー光線をこの反射板で反射させて地球と月の間の距離を正確に測っているという話がありました。次に実験に移り、2枚の鏡の間の角度を、 180° 、 120° 、 90° 、 60° 、 30° と変えながら前に置いた小さなカップがいくつ見えるかを確認しました。実験なので夫々見た数が正解でしたが、正確に実験すると{曲げた角度 \times 見えたカップの数 $=360^\circ$ }になるそうです。最後に全員で万華鏡を作りました。①教材の鏡板を筋目に沿って薄いシールが貼ってある方を内側にして折り曲げる②薄いシールをはがす(はがすと鏡面が出るので汚さないこと)③三角形に曲げて外側をセロハンテープでとめる④折り紙の一方を三角形の端に



合わせて貼り、反対側の余った部分をハサミで切り込みを入れて内側に貼り付

け覗口とする。これで万華鏡の完成です。みなさんが覗口から親の顔、外の景色、ホログラムシートなどを見て楽しみました。



4)家庭学習成果発表会；多数の受講生が、教材の中から自由に選んで家庭学習(実験)を行って報告書にまとめ提出しました。最終日にこれを掲示板に貼り、6~7のグループに分かれて約3分間で受講生が説明をしました。受講生(小学校1,2年生)が大勢の人の前で発表するのは良い経験になったことでしょう。

8. 同好会報告
茶道、ゴルフ同好会、歴史の会、写真の会、麻雀同好会、俳句の会、特になし。囲碁の会:11日第二金曜日と18日第3金曜日に例会を行います。旅行クラブ:2月中に蔵王または金沢に旅行を計画します。15名ほどを予定しています。

8. 同好会報告

茶道、ゴルフ同好会、歴史の会、写真の会、麻雀同好会、俳句の会、特になし。囲碁の会:11日第二金曜日と18日第3金曜日に例会を行います。旅行クラブ:2月中に蔵王または金沢に旅行を計画します。15名ほどを予定しています。

9. その他 なし。

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会の挨拶 荒副会長

最近福井県の敦賀の地名が頻りに新聞紙上を賑わせています。日本書紀の垂仁(スイニン)天皇の巻に「額に角の生えた人が越の国のケヒの浦に着いた」とあって、それで角鹿(ツルガ)と名付けたと記しています。この伝説は、古代日本に製鉄技術が伝えられ、大発展したというお目出度い記事です。

また JR 敦賀駅前の広場に、ツルガアラシトさんの銅像が建っていて皆さんに手を振って挨拶しています。

私の遠い遠いご先祖さまが立っていらっしやると私は信じています。

休憩

第二部 新年懇親会 (18:00~20:00)



宮城例会副委員長、
荻島例会副委員長の
軽妙な司会で開会。

吉田会長挨拶：新年のお目出度い席ですので楽しくお過ごしください。

懇親会の初めはシニア・ダンディーズによる演

奏ではじめられた。ピアノ伴奏は、いつもにこやかな畑野かな奈さん。曲の紹介は立川さん。5曲の演奏を終えアンコールは全員で「鉄腕アトム」を歌った。



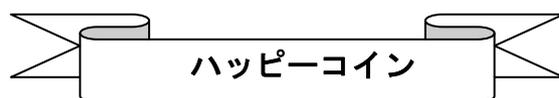
佐々木前会長の音頭で声高らかに乾杯。

ドリンクコーナーの思い思いの飲み物で、賑やかに会食と歓談。

頃合いを図って荻島副委員長の先導で会員によるカラオケで盛り上がった。

た。

フィナーレは宴もたけなわの中、みんな輪になり手をつないで夕焼け小焼けの大合唱でお開きとなった。



◆71才になりました。 下田 泰造

◆誕生日 八七(はな)で寿ぐ 寒椿 大野 聖二

◆かねて念願の息子2人とのトリオ・コンサートを行うことになりました。3月23日、旧東京音楽学校奏楽堂です。上野公園の観桜かたがたご来聴頂ければ幸いです。 山形 忠顯

◆正月2日から7日迄奈良に滞在古寺巡礼の旅をしてきました。清々しい正月でした。野口 浩平

◆“めでたさも 中位なり おらが春”、本年もよろしく願い致します。 宮城 安子

◆今日は何の日でしょうか?1月10日は110番の日です。私の会員No.が110ですので今日はハッピーです。 荻島 靖久

◆おめでと御座います。今年の東阿部流初煎会ではホテルオークラで点前をすることになり、初心にかえり懸命につとめさせていただきたく思っています。 阿部 治子

◆昨年末息子に長女が誕生しました。これで娘、息子それぞれに長男、長女が揃い、孫も4人となり、平和で賑やかな正月を迎えた。 寺田 昌章

◆今月やっと74才になります。これからも元気でゴルフができるよう頑張ってください。

米林 伸恭

◆期待された安倍内閣のスタート、デフレ脱却と2%のインフレ目標を日銀へ義務付け。株式の値上がり、為替の円安が進んでいますが安定した年になることを祈るばかりです。 竹内 賢治

◆元日のサッカー、柏レイソルが勝ち天皇杯獲得、2、3日の恒例の箱根駅伝、母校青山学院大学健闘するも8位。来年のシード確保。 宮崎 浩平

◆裁判员制度からプロバスの中に指名された人が数人いるそうです。蔭での活躍にたいしご苦労様と申し上げたい。 中野 義光

◆一番上の孫が第一志望の薬科大学に合格しました。親子三代の薬剤師が生まれそうです。

高取 和郎

◆喜寿を迎えました。まだ好奇心は衰えさせませんぞ。 下山 邦夫

◆昨年10月喜寿を迎える事が出来ました。命ありがとう。 土井 俊玄

◆あけましておめでとうございます。今年一年安らかに過ごせることを祈ります。 佐々木 正

◆今日は晴れの新年会。昔のスーツが喜んでいる。 荒 正勝

◆新しい年を迎え皆様のご健康を祈念いたします。毎月の例会でお会い出来ます事がなよりの楽しみです。よろしく願い致します。今年もハッピー、ハッピーで！！ 飯田富美子

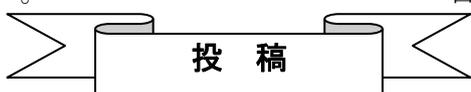
◆新潟プロバスクラブより全日本プロバス協議会副会長として公式訪問の要請を受けて雪の新潟に行って来ました。例会のほか雪とおいしい新潟のお酒で歓待を受けました。コンパクトでもすばらしいクラブで手作りの良さがありました。

立川富美代

◆初めての入院で手術をしました。無事退院できるか不安がありました。が約一ヶ月で退院できました。先生はじめ関係の皆様方に感謝しています。

小林 貞男

◆あけましておめでとうございます。今年も八王子プロバスクラブにとって良い年でありますように。 吉田 信夫



パソコンを捨て、そして町へ出よう！！

武田洋一郎

以前から、ツイッター、フェイスブックなどのSNS*を利用して、ネット上で知人と交流を重ねているが、便利で有効な意思疎通ツールである

反面、正直いって、知人の近況や、メッセージを読んだり、共感して「いいね！」をクリックしたり、コメントを書くという気遣いに疲れが出てきた。



元々、自分の、そして所属団体のイベントなどの情報を発信し、公開することを目的に利用していたのだが、

交流の輪が次第に大きくなるにつれ、ツイッターのフォロワー数その数696人、フェイスブックでは友達が112人と増加、このためそのお付き合いが負担になってきたのである。

古希を過ぎ、この先残り時間の少なくなったこの辺で、あらためてSNSの利用について振り返ることにした。そこで、まずは自分に必要な情報とは何か、いろいろ考えてみた。

①IT時代、洪水のように押し寄せる様々な情報を、先取りすることが本当に幸せなのだろうか。

②知らされなくてもよい迷惑な情報も、容赦なく襲いかかってくる社会に生きている。自分はそのガードにどう対処していただろうか。

③興味があるからと、むやみやたらに、新しい情報を追いかけてはいなかったか。情報に対する欲望は食欲と同じだ。与えられるとどこまでも欲しくなるからだ。

④最近、パソコン、携帯、スマートフォンなど、処理・通信速度を競って宣伝しているが、一線を退いた今、自分は本当にその速さを必要とする道具がいるのか。

⑤仕事用・プライベート用のデスクトップパソコン、ノートパソコン、それにiPadなどのタブレット端末、と機器が増えれば増えるほど、そのメンテナンスやプログラムの修復・アップデートなどの情報収集に相当の時間とお金が費やされている。費用対効果を考えると本当にそれで良かったのか。

あれやこれや思い考えたときに、“パソコンの前に座ることが日常、というこの日常から離脱して、時間を取り戻さなければならぬ”という結論

に達した。

そうだ、パソコンを捨て、そして町へ出よう！！

もう急ぐことはない、歩く速さで、生きてゆこう。そうすれば、周りがよく見え新たな発見があるはずだ。パソコンを捨て、そして、時間に余裕が生まれれば、以前、購入した本を読み返したり、時間をかけて料理をしたり、散歩したり、旅行に出かけたりすることで充実した生活がよみがえるはずだ。

「老兵は死なず、ただ消え去るのみ (Old soldiers never die; they just fade away.)」という言葉思い出した。「老齢期に入ったら潔く、次代の若者に活躍の場を譲らなければならない」。自分の今ある地位、立場を次の世代に円滑に継ぐことが大事なのだ。そうなのだ。若者に負けまいと、我を張って無理をしてはいけないのだ。「時代に逆らうことはないが、遅れてはならない」という気負いがそもそも間違いの元なのである。

それはさておき、例えば、時刻についても、「何でそんな1分1秒の正確な時刻が必要なのだろうか」と自問自答したとき、私にとっては必要ないという答が返ってきた。ならば電波時計やソーラーでなくても、昔の手巻き式や自動巻の時計でも良い。針は自分で合わせるゆとりがあっても良いじゃないかと。

それでは、本題の「パソコンを捨て、町に出る」には、どうすればよいのだろうか？

☆まず、何とんでもパソコンに依存するような「余計な仕事」はしないこと。

☆今あるパソコンをすべて捨てる・・・にはさすがに厳しいので、取りあえず4台から1台にする。

☆パソコンの前には一日1回、時刻と時間を決めて座る。

☆対面の会話、電話での連絡を重視し、パソコンを使うメールは確認記録が必要な局面のみ使用するよう心がける。

☆重要でない情報のメールマガジンなどの購読は停止、Facebookなどの友達も限定する。

☆妻の厳しい目を逃れて新しいものを買うというスリリングで無駄な努力はしない。

と、思いつくまま洗い出してみたが、

★以上の考えは、「だんだんと減らすこと」でし

かない!… (内なる声) 決定的な解決策が不足だ!

★うーん。思い切って断捨離、全部捨てないと! … (内なる声) でも無理無理!

★メールなど、義理を欠いても許される年代だ〜! … (内なる声) そうだそうだ!

★何をすべきか分かったので、この辺で手を打とう! … (内なる声) 妥協するとは情けないぞ! 大層なタイトルを掲げた割には、意志が弱いということが露呈しました! …猛反省!

*SNS: ソーシャル・ネットワーキング・サービス (social networking service、SNS) とは、社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスの事である。代表的なソーシャル・ネットワーキング・サービスとして、mixi (ミクシイ)、モバイル向けのGREE (グリー)、Mobage (モバゲー)、Facebook (フェイスブック)、Twitter (ツイッター)、Myspace (マイスペース) などがある。

楽茶碗を作る

高取 和郎



東京八王子プロバスクラブのお茶の会が楽茶碗を作ろうという事になり、昨年、抹茶碗を作った太田和明陶芸教室に集まり作陶をした。9月19日(水)に総勢8名が教室に集合し、太田先生から楽茶碗についての説明と今回作る黒楽茶碗の見本となる「長次郎作の俊寛」の写真とサイズの図面を使って作り方の説明があった。

また、使う粘土は黒楽に使う「耐急熱急冷粘土」を使用する。釉薬は「特上加茂川石粉6、黒楽用白玉3、安全粉1.5」を布海苔(教室ではCMCを使用)で溶かしたものを使用する。

炉は1120℃まで昇温し、還元焼成で7分位焼成し、少し時間を見て水につけると「のんこう黒」といわれる黒色を呈す。或は、器に入れた稲モミの中に入れ、モミが蒸し焼きになる時、すすが付着し独特の黒色を発色する。

早速、粘土1kg、見本の図面を見ながら手回し轆轤の上で手づくねで形を作る。

形が出来上がればしばらく乾燥し削りに入る。

形が出来たところで乾燥する時間を使って昼をとるため、車であきる野にある、「手打ちそば加賀屋」へ行く。自家製の手打ちそばを皆でゆっくりと賞味しそばの味を楽しんだ。そして、教室に戻り削りに入る。慣れないと削りが十分にできずに茶碗が重くなる。1 kgの粘土を削って 400 g 台になるよう削るが、なかなか茶碗の厚みを均等に削れず、底に穴が開きそうになったりする。やはり、均等に削れないと焼成時にひびが入り割れてしまう原因になる。初日はここで終了。10月3日に再度集まり、焼成に入る。

乾燥した茶碗を電気窯で完全に水分が抜けるまで乾燥する。焼成窯に火を入れ窯の温度を1000℃近くまで昇温させる。温度が1200℃になると、特有のはさみで茶碗をはさみ炉に入れる、それから7分時間を計り真っ赤に焼けた茶碗を取り出し、しばらく見ていると茶碗の表面が黒味かかってくる。すかさず水を張ったバケツの中に入れる。また、取り出した茶碗を器に入ったもみ殻の中に入れ、直ぐに蓋をして蒸し焼きにする。どちらも、黒色に発色するが水に入れた時ともみ殻の時とは微妙に色が異なる。出来上がった茶碗を手にとると、数人の方に素晴らしい色合いの楽茶碗が出来上がった。幾人かの方の茶碗にはひびが入ってしまった。焼き物を焼成する時はひびが入ったりすることがある。原因は茶碗の削りが不均等で厚みにむらのある場合、また小さい傷が茶碗の口造りあたりにあるとそこからひびが入ることがある。

お茶の会の仲間と二日間にわたって楽茶碗を作ったが、自分の茶碗を作る事は二つとない茶碗ができ、本当のマイ茶碗である。

焼成時に割れてしまった方で、別の日に再度挑戦した方もいる。ひびが入った茶碗を、床の間に静かに飾って鑑賞している方もいるとの事です。



俳句同好会便り

河合 和郎

私の一句～1月の句会から

1月の兼題は「初日」。初句会。今年も佳句続出の予感。皆さんの一句をご紹介します。

初暁の音無き里や星ひとつ 山形 忠顕

新年を迎える払暁。里はまだ深い眠りの中にある。空には明星が輝いている。佳句。

自然への豊かな知識若菜粥 馬場 征彦

ご馳走攻めの胃腸には鮮やかな青菜の若菜粥を。正に先人の知恵。瑞穂の国ならではの贅。

雲海を黄金に染めし初日の出 渋谷 文雄

初日を詠んで大きな景の句。自宅のベランダからの眺望とか。「句材はどこにでも」のお手本。

葉隠れの万両の紅鮮やかに 石田 文彦

千両の実は葉の上に、万両の実は葉の下に付く。仔細な観察がひそやかな万両の実を佳句に。

白銀のシュプールきらり初日の出 田中信昭

初日の出を爽やかに詠った。「シュプールきらり」の措辞に若々しい感性が。秀句。

ゆく年や蜜柑むく手に鐘の音 飯田富美子

新年の準備も終り、ほっと一休み。「蜜柑むく手」に作者の気持ちがよく表現されている。

共白髪五十五度の初日かな 東山 榮

老いて益々元気なお二人の姿が初日の中に浮かぶ。次なるダイヤモンド婚式を目指して。

風花に襟立ててゆく詣で道 阿部 治子

初参りの引き締まった気持とその雰囲気伝わる。日常生活から作品を生み出す俳句の魅力。

大しめ縄初日かがやく夫婦岩 河合 和郎

日本各地にある風景。二見ノ浦の日の出は特に名高い。今年も夫婦仲良くの願いを込めて。

編集後記：

あけましておめでとうございます。

この記事を読むころは、もはや早春。ぼつぼつ野山には早咲きの花ねこのめ、あずまいちげなどが可憐な花をつける頃です。

八王子プロバスは今年も奉仕の花を咲かせましょう。

八木 啓充